

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

Ⅱ 2025 年 6 月期決算説明文字起こし Ⅱ

株式会社タウンズ

197A 東証グロース市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 8 月 14 日（木）



FISCO Ltd.
<https://www.fisco.co.jp>

タウンズ | 2025年8月14日(木)
197A 東証スタンダード市場 | <https://www.tauns.co.jp/investors/>

■決算説明



2025年6月期通期決算説明資料についてご説明いたします。

本資料は、会社概要、2025年6月期決算概要、そして2026年6月期業績予想の3つのパートで構成されています。

1点目の会社・事業の概要は、当社が上場して間もないため、基本的な会社説明として引き続き掲載しております。一部数値などは最新の情報に更新しております。2点目の2025年6月期通期決算概要では、感染症の流行状況が変動する中で、当社の通期業績がどのように着地したかをご説明します。3点目の2026年6月期の業績予想では、今後の事業環境や市場トレンドを踏まえた業績予想をお示ししております。また、株主還元についてもご説明します。なお、中期経営計画につきましては、当社を取り巻く事業環境とこれまでの取り組みを総括し、中期的な戦略としてまとめ上げ、8月20日に開示させていただきます。



01. 会社・事業概要	P.02
02. 2025年6月期 決算概要	P.11
03. 2026年6月期 業績予想	P.22
04. Appendix.	P.27

まず、会社・事業の概要をご説明します。

会社概要



社名	株式会社タウンス [英語名: TAUNS Laboratories, Inc.]			
代表者	代表取締役社長 野中 雅貴			
創業年月 設立年月*	1987年4月 2016年4月 (*グループの再編に伴う現法人の設立年月)			
本社所在地	静岡県伊豆の国市神島761番1			
資本金 (2025年6月30日時点)	289百万円			
役員構成 (2025年6月30日時点)	代表取締役社長 取締役 取締役 取締役	野中 雅貴 内山 義雄 永井 淳平 伊藤 政宏	社外取締役 社外取締役 監査役 社外監査役 社外監査役	三品 聡範 千葉 理 遠藤 佳孝 中川 真紀子 Caroline F. Benton
株主構成 (2025年6月30日時点)	上場前からの大株主 創業者: 26.7% 金融投資家: 40.7% 上場後/その他の株主 その他: 32.4%			
事業内容	体外診断用医薬品、研究用試薬等の開発、製造及び販売・輸出入、 主要製品は感染症の抗原検査キット			
売上規模	18,627百万円 (2025年6月期)			
従業員数	360名 (2025年6月30日時点)			
総資産	36,515百万円 (2025年6月30日時点)			
拠点	本社・神島工場、清水町事業所・R&Dセンター、東京オフィス			
主な取引先	スズケン、ロシュ・ダイアグノスティクス他			



本社・神島工場



清水町事業所・R&Dセンター



三島工場 (2025年12月体制構築完了 (筆許可、バリエーション等)、2026年2月本格稼働予定)

当社の創業は1987年で、創業者は現CEOの野中の父です。本社兼工場の所在地は、静岡県の伊豆の国市です。その他の拠点として、静岡県清水町にR&Dセンター、日本橋に東京オフィスがあります。また、2026年2月の本格稼働を目指して、静岡県三島市に新工場の設立準備を進めております。

経営理念

私たちタウンズは、独自の体外診断用医薬品により、人々の生活に安心と潤いを届けます。
そのために、技術・知識を集積し、新たな製品の開発、品質改善に取り組み続けます。

診断技術で、安心な毎日を。

何気なく過ぎていくあたりまえの毎日も。
いつもとは違う特別なひとときも。
支えているのは、揺るぎない安心。
私たちタウンズは、独自の診断技術を追求め、
疾病の診断、早期発見のお手伝いをしています。
ひとりひとりの不安を取りのぞくことで、
世界中で未来への見通しをよくすることで、
安心な毎日を支え続けます。

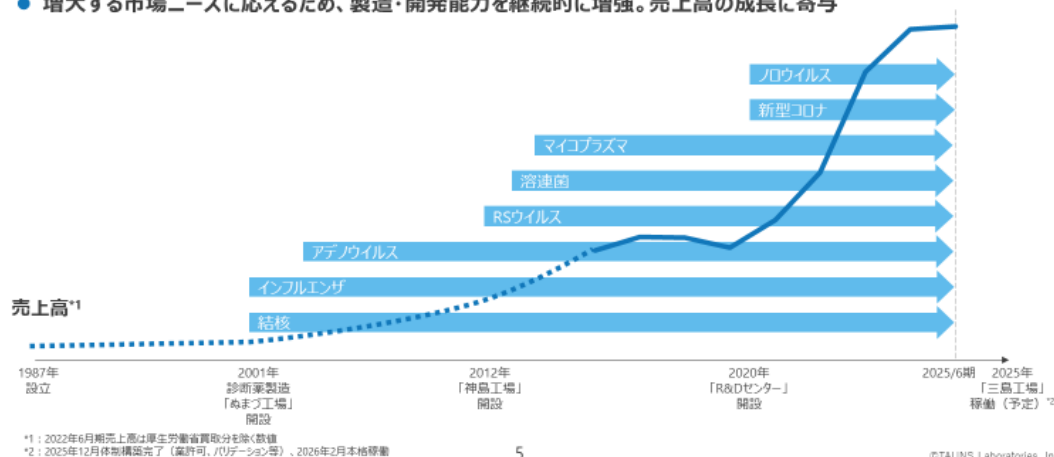
4

©TAUN'S Laboratories, Inc.

当社は経営理念として、「体外診断用医薬品（IVD）により、人々の生活に、安心と潤いを届けること」を掲げています。IVD（In Vitro Diagnostics）とは、尿や血液など、人体から採取した検体を用いて、疾患の検査をする製品です。当社はその IVD の中でも、POCT（Point of Care Testing）という「患者のそばで検査され、すぐに結果が出る製品」を主に扱っています。いわゆる抗原検査は、代表的な POCT の一つです。

沿革

- 2000年代初頭から、豊富な抗原検査のラインナップを順次展開
- 増大する市場ニーズに応えるため、製造・開発能力を継続的に増強。売上高の成長に寄与



当社の沿革です。

当社は 2001 年に感染症抗原検査事業に参入したのち、お客様のニーズにお応えしながら、順次製品ラインナップを拡充して、成長を続けてきました。

タウンズ | 2025 年 8 月 14 日 (木)
197A 東証スタンダード市場 | <https://www.tauns.co.jp/investors/>

事業内容

- 主に、感染症臨床検査用の抗原検査キットを開発・製造。インフルエンザを始め、アデノウイルスや新型コロナなど多くの感染症項目において「イムノエース」ブランドの製品を展開

主な製品群

感染症領域

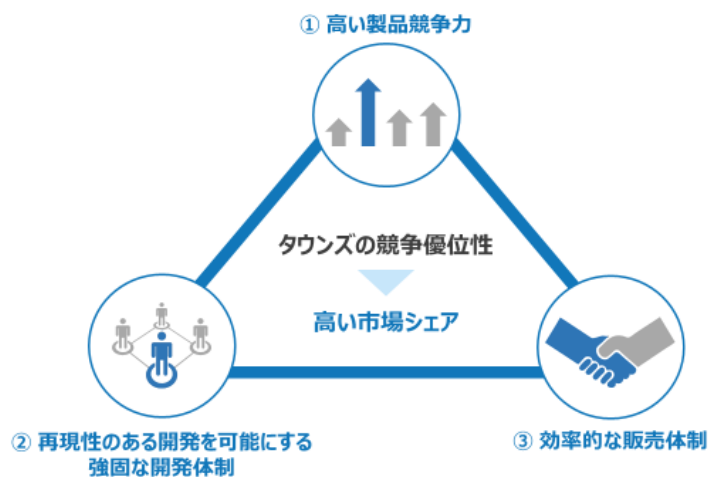


6

©TAUNS Laboratories, Inc.

当社の主要製品は、新型コロナやインフルエンザ等の、感染症の抗原検査キットです。
こちらにお示ししているように、幅広い感染症項目をカバーしています。

タウンズの3つの競争優位性



7

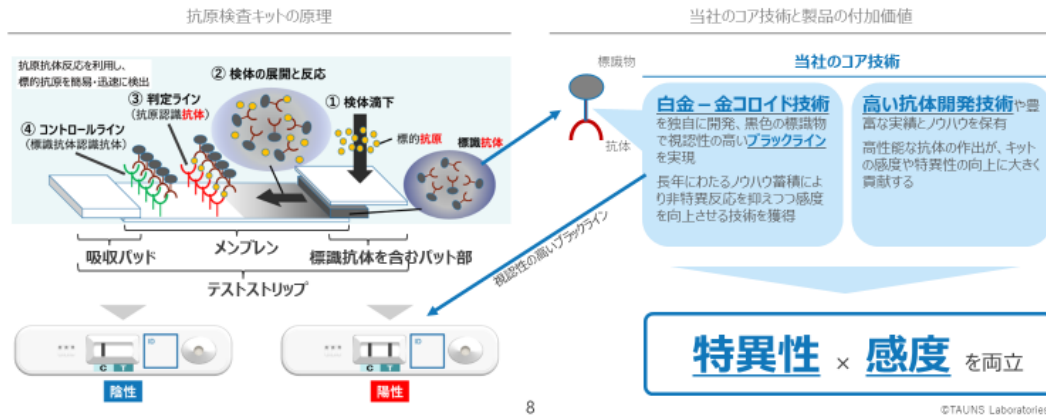
©TAUNS Laboratories, Inc.

当社の製品が、医療機関から幅広くご支持をいただいている背景として、「製品競争力」「開発体制」「販売体制」の3つの視点から、当社の競争優位性についてご説明します。

タウンズ | 2025年8月14日(木)
197A 東証スタンダード市場 | <https://www.tauns.co.jp/investors/>

抗原検査キットの原理・当社技術の強み

- 数多くの自社抗体の開発実績（特許化含む）や、独自技術である白金－金コロイドなど高い技術力を有する
- 技術力を活かし、特異性と感度を両立した高品質な製品を開発。さらには複数感染症間の幅広い検体共用の実現など、医療現場と患者双方にとって価値の高い製品を供給している



まず、当社の主力製品である抗原検査についてご説明します。左側の図は、抗原検査キットの基本原則を示しています。図①のパッド部には、抗体と、目印になる標識物とを結合した「標識抗体」が浸み込ませてあります。鼻や喉から採取した検体を、図①の「パッド部」に滴下すると、検体中に含まれるウイルスなどの「抗原」が、パッド部の「標識抗体」と、いわゆる抗原抗体反応により結合します。よって、たとえばインフルエンザ検査キットであれば、インフルエンザウイルスという抗原に対してのみに、高い感度で結合する「抗体」に関する技術が、まずは重要となります。

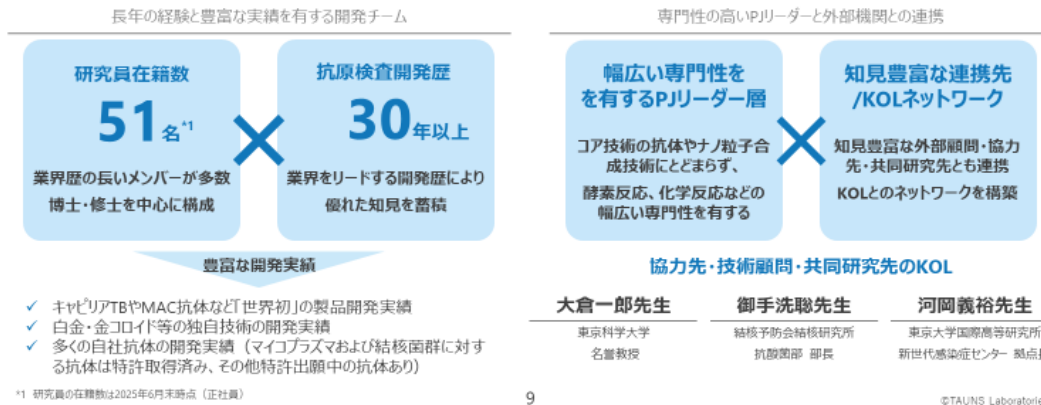
抗原も抗体も、極めて小さいミクロの世界ですが、標識抗体には目印となる「標識物」があらかじめ結合されています。この「標識物」により、ミクロの世界の抗原抗体反応が、「目視」できるようになります。よってこの「標識物」も、抗原検査キットにおいて非常に重要な技術となります。滴下された検体は、毛細管現象により、図の右から左へと流れていきますが、もし検体中に標的の抗原が含まれていれば、図の①から②にかけて、「抗原-抗体-標識物」という3つが結合した状態が形成され、検体は図③の「判定ライン」へと流れていきます。図③の「判定ライン」には、更に別の抗体が、ライン上に多数、固定されています。抗原を含む検体が図③に達すると、検体中の抗原がライン上に固定された抗体と結合し、「(固定された)抗体-抗原-抗体-標識物」という状態で、ライン上に数多くの標識物が集積します。一定時間経過後に、多数の標識物がライン上に集積することで判定ラインが目視で確認出来れば陽性、判定ラインが見えなければ陰性、と判断することができます。これが抗原検査キットの原理です。

さて当社は、このような抗原検査キットのコア技術である、「抗体」と「標識物」に関して、それぞれ独自の強固な技術基盤を確立しています。抗体に関しては、自社開発に加えて、資本提携先との共同開発を行い、感度と特異性を高い水準で両立した優れた抗体ライブラリーを確立しています。当社の新型コロナ単品検査キット「イムノエース® SARS-CoV-2 Ⅲ」は、抗原検査キットに広く使われているマウス由来の抗体に替えて、独自開発のウサギ由来の抗体を採用し、より高い検査精度を実現しています。抗原検査キットの標識物としては、一般的には「金コロイド」という金の微粒子が使用されており、「金コロイド」は赤色の判定ラインを形成します。これに対し、当社が独自に開発した「白金-金コロイド」は、より視認性の高い黒色の判定ラインを形成し、当社キットの高い感度を支えています。当社はこのような技術基盤を活用して、品質の高い製品を供給しています。

タウンズ | 2025 年 8 月 14 日 (木)
197A 東証スタンダード市場 | <https://www.tauns.co.jp/investors/>

再現性のある開発を可能にする強固な開発体制

- 豊富な業務経験と高度かつ多様な専門性を有する開発チームが、開発活動を牽引
- 長年の研究開発を通して社内に蓄積されたノウハウに加え、社外からも知見を得ることで迅速かつ革新的な開発を実現

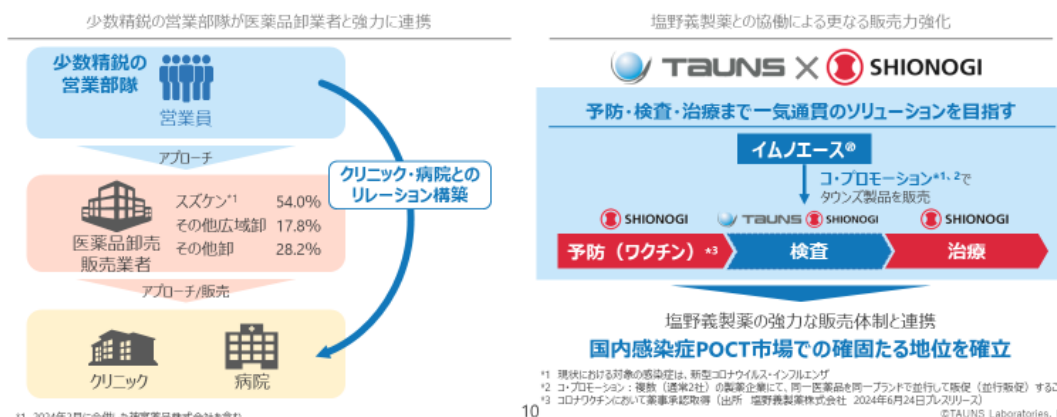


続いて、当社の開発体制についてご説明します。

当社はこれまで 30 年以上にわたり、抗原検査の研究開発に取り組んできました。長年の研究開発で蓄積された各種ノウハウと、様々な専門分野のベテラン研究員、更には社外の知見豊富な研究者との協力体制が、当社の高い技術力の源泉です。これらにより、抗体関連技術や「白金・金コロイド」技術などのコア技術の開発をしている他、結核などの抗酸菌検査の分野においては、「世界初」となる製品の開発実績を複数有しています。

商流と営業体制

- 少数精鋭の営業員が、卸業者と強固な協力関係を構築。主要な感染症抗原検査キットで国内トップクラスのシェアを獲得
- 塩野義製薬との協働（コ・プロ）により、感染症対策において「予防→検査→治療」まで一気通貫のソリューションを提供。クリニックに強い塩野義の販売力と、病院に強い当社営業員のシナジーにより、国内感染症POCT市場での地位を更に強固にする
- 足元では、ロシュとの販売提携（コ・マーケ）により、コンボ検査キットを中心にさらなるシェアアップを図っている



次に、当社の販売体制についてご説明します。

当社の営業員は、10 年以上の業界経験を有するベテランが中心です。少人数体制でありながら、主力製品で国内トップのシェアを獲得しており、営業チームの生産性は非常に高い水準といえます。当社はスズケン様などの卸業者を通して医療機関へ

キットを販売するため、卸業者との協力関係が販促のポイントになります。また当社は 2022 年より、塩野義製薬様と、当社製品の販売に関する協働を行っています。ワクチンと治療薬を有する塩野義製薬様と、POCT 製品を有する当社の協働により、「予防→診断→治療」まで、感染症対策を一気通貫で行うことができるようになりました。当社は、塩野義製薬様の販売力を活用することで、国内感染症 POCT 市場における確固たる地位を確立したいと考えています。足元では、ロシュ・ダイアグノスティックス様との販売提携を開始し、コンボキットを中心に病院市場での更なるシェア向上を図っております。



01. 会社・事業概要	P.02
02. 2025年6月期 決算概要	P.11
03. 2026年6月期 業績予想	P.22
04. Appendix.	P.27

ここからは、2025 年 6 月期の業績についてご説明します。

2025年6月期 通期ハイライト

- ✓ 新型コロナに関しては、夏・冬ともに流行規模は前期を下回り、定点ベースで通期の流行規模は前期比約4割程度減少した。流行規模の減少に伴い、新型コロナ単品検査キットの市場規模も前期比で減少したが、当社はシェアを大きく高め、前期比で同キットの売上を増加させた
- ✓ インフルエンザに関しては、24年末に一時観測史上最大の流行水準となったが、第3四半期に入ると急速に流行が収束した。前期は第1四半期にインフルエンザの流行が開始し長期間にわたって流行が継続していたことから、通期での流行規模は前期比で約5割程度減少した。当社はインフルエンザ検査キットのシェアを高めたものの、流行規模の減少とコンボ検査キットへのシフトにより前期比で同キットの売上は減少した
- ✓ 新型コロナ、インフルエンザの流行規模はいずれも前期より減少したものの、コンボ検査キットの市場浸透が進んだこと、長期間にわたる出荷調整を余儀なくされた前期と異なり当期は十分な在庫水準を維持して安定供給を継続したこと、ロシュとの販売提携を開始したことなどから、コンボ検査キットの売上は前期を上回り全社業績をけん引した
- ✓ 各段階利益は前期比で増益。相対的に利益率が高い新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットの売上構成比が増加したことで、期末における在庫評価損の計上などの影響を補い、各段階利益率も改善した

タウンズ | 2025年8月14日(木)
197A 東証スタンダード市場 | <https://www.tauns.co.jp/investors/>

2025年6月期の業績

- 新型コロナ、インフルエンザのいずれも前期比で流行規模は小さかったが、当社は十分な在庫を持って流行時の需要に対応したこと、販売体制の強化を図ったことなどによりシェア拡大を実現し、前期比で増収となった
- 利益率の高い新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットが売上に占める割合が高まったこと、販管費の水準は前年同期とほぼ同等で推移したこと、在庫評価損の計上などがありつつも各段階利益率は改善した

(百万円)	23年6月期		24年6月期		25年6月期		
	実績	利益率	実績	利益率	実績	利益率	前期比
売上高	15,673	-	18,434	-	18,627	-	1.0%
売上総利益	9,199	58.7%	12,498	67.8%	12,774	68.6%	2.2%
営業利益	4,967	31.7%	8,030	43.6%	8,265	44.4%	2.9%
経常利益	4,953	31.6%	7,840	42.5%	8,219	44.1%	4.8%
当期利益	3,034	19.4%	5,774	31.3%	6,315	33.9%	9.4%
EBITDA	5,607	35.8%	8,706	47.2%	8,980	48.2%	3.1%

13

©TAUNS Laboratories, Inc.

当期の業績は、売上高、各段階利益ともに前期比で増収増益となりました。

増収に加えて、利益率の高い新型コロナ単品検査キットやコンボ検査キットの売上構成比が高まったことで粗利率が改善し、期末における在庫評価損の計上がありながらも、各段階利益率も前期比で向上しました。

主要製品別の売上高（2025年6月期）

- 新型コロナ、インフルエンザのいずれも前期比で流行規模は小さかったが、新型コロナ単品検査キットはシェア拡大により売上が増加。一方、インフルエンザ検査キットはシェアを高めたものの、コンボ検査キットに需要の軸足が移ったこともあり、売上は減少した
- コンボ検査キットは、年末年始にかけて行われた一部代理店による在庫確保の動きに適時に対応したことやロシュとの販売提携の効果などもあり、前期比で売上を伸ばすことが出来た

(百万円)	23年6月期		24年6月期		25年6月期	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比
新型コロナ単品検査キット	8,687	55.4%	4,712	25.6%	4,854	26.1%
新型コロナ/インフルエンザ コンボ検査キット	3,415	21.8%	6,375	34.6%	7,921	42.5%
インフルエンザ検査キット	1,435	9.2%	4,087	22.2%	3,314	17.8%
その他（アデノ・溶連菌、RSなど）	2,135	13.6%	3,259	17.7%	2,537	13.6%
合計	15,673		18,434		18,627	

14

©TAUNS Laboratories, Inc.

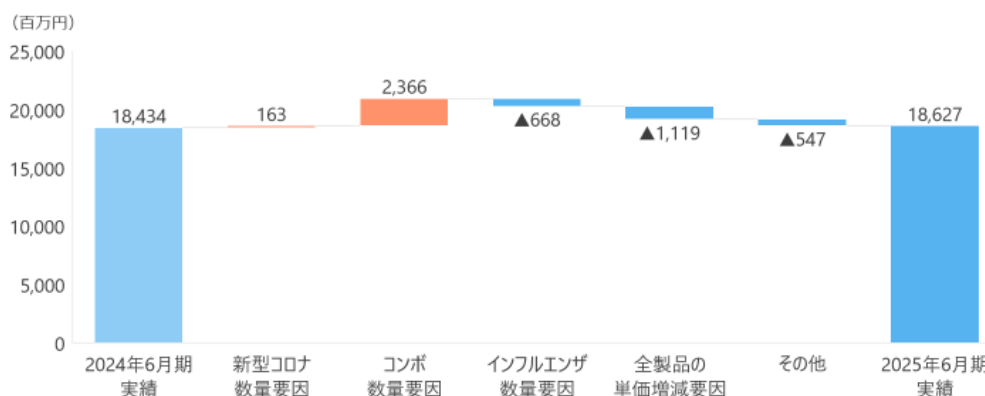
通期の主要製品別売上高を見ると、新型コロナ単品検査キットとコンボ検査キットが前期比で増収、インフルエンザ検査キットは減収となりました。新型コロナ単品検査キットは、新型コロナの流行規模が前期を大きく下回る中で、当社はシェアを大きく伸ばすことで販売数量を確保し、増収を達成しました。

インフルエンザは、年末年始に一時的な大流行はあったものの流行期間が短かったため、通期での流行規模は前期を下回りました。当社はインフルエンザ検査キットのシェアをさらに拡大したものの、流行規模の縮小と、需要の軸足がコンボ検査キッ

トに移った影響を補いきれず、減収となりました。コンボ検査キットは、医療機関でのコンボ検査キットの選択率が高まる中で、当社は十分な在庫確保によるキットの安定供給や、ロシュ・ダイアグノスティックス様との販売提携の開始などの取り組みにより着実に販売数量を向上させ、増収を達成しました。

前期比売上高の増減要因

- 前述のとおりコンボ検査キットの販売数量増加が、増収に寄与した
- 販売単価は下落したものの、期初想定範囲内に収まっている



15

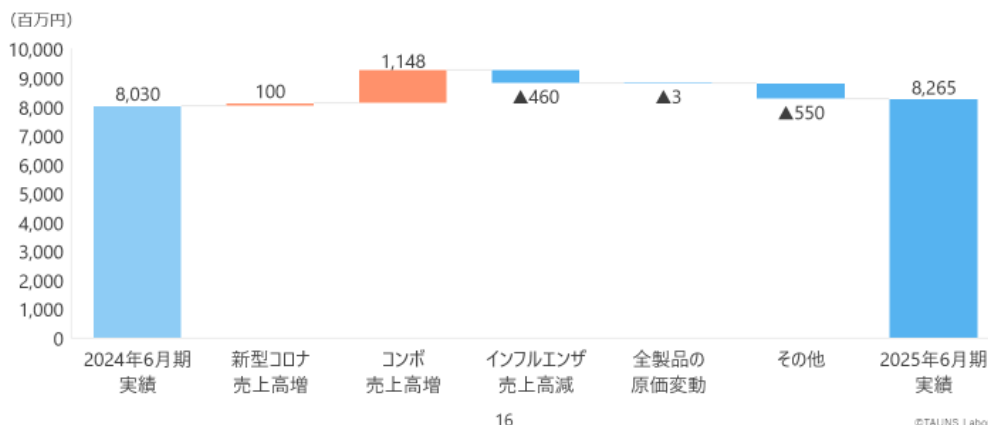
©TAUNIS Laboratories, Inc.

こちらのスライドは、前期比での売上高の増減要因をご説明したものです。インフルエンザ検査キットの数量減少や、各製品の販売単価の下落といったマイナス要因がありましたが、新型コロナ単品検査キットのシェア向上と、在庫拡充により冬季のコンボ検査キットの需要増を確実に取り込んで販売数量を伸ばしたことで、全体として増収を達成することができました。なお、販売単価の下落幅は期初想定と比べて限定的な水準でした。

タウンズ | 2025 年 8 月 14 日 (木)
197A 東証スタンダード市場 | <https://www.tauns.co.jp/investors/>

前期比営業利益の増減要因

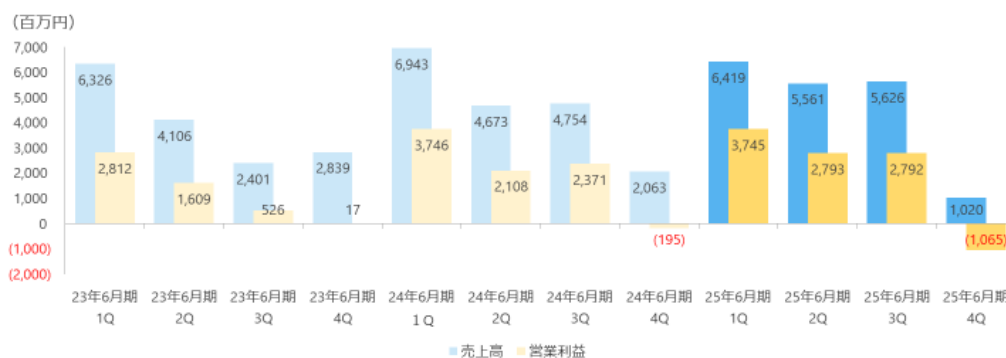
- 前述のとおりコンボ検査キットの売上増加が、増益に寄与した
- 期末において一定の在庫評価損の計上などを行ったものの、ウサギ抗体導入などの原価削減により影響を吸収した



こちらのスライドは、前期比での営業利益の増減要因をご説明したものです。売上高の増加に加え、利益率の高いコンボ検査キットの売上構成比が高まったことによるセールスミックスの改善が、利益を押し上げました。期末において一定の在庫評価損の計上を行ったものの、ウサギ抗体導入を始めとする原価削減などにより影響を吸収しました。

四半期毎売上高・営業利益推移

- インフルエンザが9月ごろから流行し始めた前期と比べると、当期の第1四半期の売上高は減少した。一方で当期においては十分な在庫量を確保したことで、冬の流行期の需要急増に適時に対応することができた。これにより第2四半期、第3四半期の売上高・営業利益は、長期間の出荷調整を強いられた前期と比べて増加した
- 第4四半期は、新型コロナの流行期ズレの影響と、第3四半期において卸業者が確保した市中在庫の消化局面が続いたこと、期末における在庫評価損の計上などにより、前期比で減収減益となった



こちらは四半期ごとの売上高と営業利益の推移です。インフルエンザが9月ごろ流行し始めた前期と比べると、当期の第1四半期の売上高は減少しました。前期は、供給制約により第2四半期から第3四半期にかけて主要製品の出荷調整が続きました。一方で当期においては、十分な在庫量を確保したことで冬の流行期における需要増に適時に対応したことで、第2四半期と第3四半期は前期比で増収増益となりました。

第4四半期は、前期は6月の新型コロナの夏の流行の立ち上がりに伴い一定の売上高を計上したのに対して、当期は夏の流行の立ち上がり時期が7月に持ち越されたこと、第3四半期において卸業者が確保した検査キットの市中在庫の消化局面が第4四半期まで継続したこと、期末に在庫評価損を計上したことなどにより、前期比で減収減益となりました。

主要製品別の売上高 四半期間（4-6月）

- 第4四半期においては、流行期ズレと市中在庫の影響を主な要因として、前期比で減収となった
- 流行期ズレは、前期においては新型コロナの夏の流行が6月下旬に到来したことによる駆け込み需要が生じた一方で、当期においては流行が次期に持ち越されたことを指す。市中在庫の影響は、当期においては年末年始のインフルエンザ流行を受けて1月迄に卸業者に出荷した市中在庫の消化局面が、期末まで続いたことを指す

(百万円)	23年6月期4Q		24年6月期4Q		25年6月期4Q	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比
新型コロナ単品検査キット	744	26.2%	755	36.6%	183	18.0%
新型コロナ/インフルエンザ コンボ検査キット	923	32.5%	333	16.2%	192	18.9%
インフルエンザ検査キット	355	12.5%	220	10.7%	61	6.0%
その他（アデノ・溶連菌、RSなど）	815	28.7%	753	36.5%	582	57.1%
合計	2,839		2,063		1,020	

18

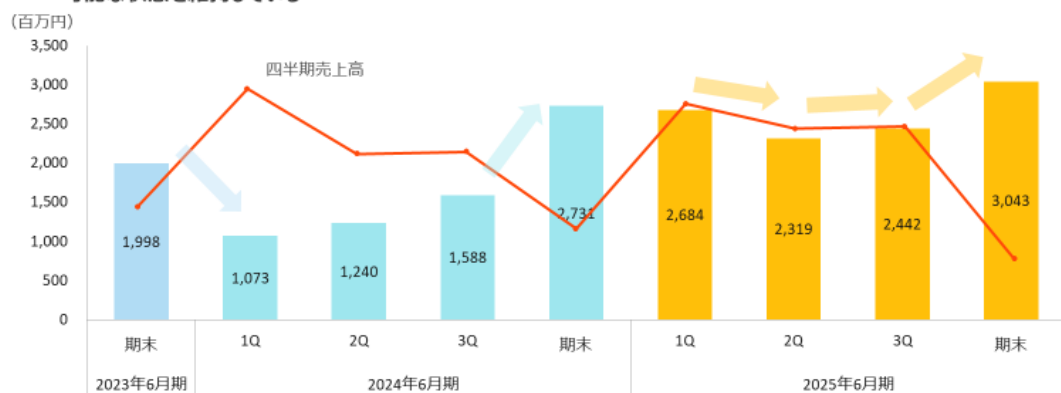
©TAUNS Laboratories, Inc.

こちらは第4四半期の主要製品別の売上高です。

新型コロナの流行期ズレと、卸業者が第3四半期までに確保した市中在庫の消化局面の継続を主な要因として、特に新型コロナ単品検査キットの売上高が前期比で大幅な減収となりました。

四半期末在庫水準の推移

- 前期においては、夏季におけるインフルエンザと新型コロナの大流行による需要の急増に伴い在庫水準が急減し、長期間の出荷調整を余儀なくされた
- 一方で当期においては、各四半期末時点において十分な在庫水準を確保しており、突発的な流行発生にも対応可能な状態を維持している



19

©TAUNS Laboratories, Inc.

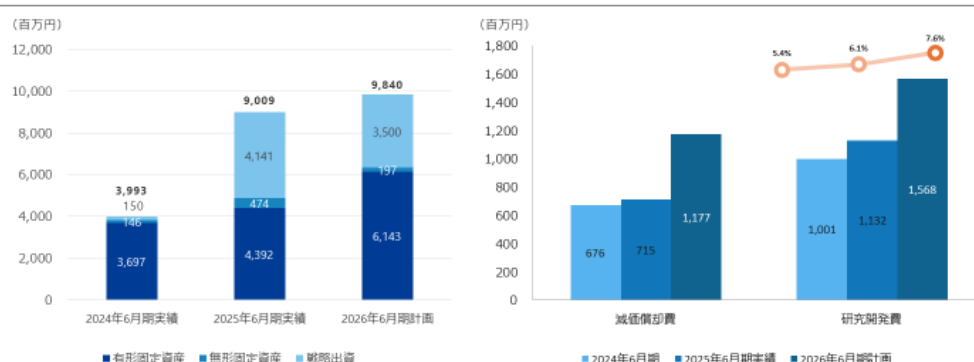
こちらは四半期末の製品在庫水準（金額ベース）と、四半期売上高の推移を示したものです。

前期においては、第 1 四半期の急激な需要拡大によって売上高が急増した反面、在庫水準が低下した為に第 2 四半期以降の需要増に対応しきれず、長期間の出荷調整を余儀なくされました。これに対して、当期においては第 2 四半期以降も十分な在庫水準を維持しており、突発的な流行発生にも対応できる状態としておりました。

投資の状況

- 25年6月期の総投資額は90億円程度まで拡大。概ね計画通り実行した有形固定資産への投資は新工場投資が太宗を占める。戦略出資に関しては今後の成長戦略を見据えて過去期より拡大
- 26年6月期においても着実に実行。有形固定資産投資は、最終局面を迎える新工場関連投資が太宗

投資の実績および2026年6月期計画



こちらは投資の状況です。当期の投資は、無形固定資産投資で 5 億円、有形固定資産投資で 44 億円、戦略的出資で 41 億円、合計 90 億円を実行しました。

無形固定資産投資の大半は ERP システム関連の投資、有形固定資産投資の大半は新工場関連の投資であり、戦略的出資は Appendix にも記載のあるバイオベンチャーとの資本業務提携によるものです。2024 年 6 月期前との対比で投資額は大きく増加しておりますが、今後の成長戦略において必要な投資を着実に実行できたと考えております。

研究開発費としては、次世代型 POCT 技術である D-IA (デジタルイムノアッセイ) 関連の研究開発費などを計上しており、売上高比では過去より若干水準が上昇しているものの、概ね想定通りの支出となりました。

2026 年 6 月期においても、継続して必要な投資を実行してまいります。

貸借対照表

(百万円)	2024年6月期	25年6月期3Q	2025年6月期	(百万円)	2024年6月期	25年6月期3Q	2025年6月期
流動資産	16,915	18,753	15,476	流動負債	10,474	10,849	9,529
現金及び預金	9,424	8,580	9,266	買掛金	1,482	1,296	1,199
売掛金	2,706	4,975	247	短期借入金	4,500	4,500	4,500
商品及び製品	2,731	2,442	3,043	1年内返済予定の長期借入金	732	831	1,114
仕掛品	846	1,161	1,515	未払法人税等	1,706	1,547	842
原材料及び貯蔵品	1,140	1,409	1,324	未払消費税等	387	542	101
その他	66	183	78	その他の流動負債	1,665	2,131	1,771
固定資産	12,345	18,881	21,038	固定負債	5,120	9,113	9,567
有形固定資産	7,905	12,151	12,279	長期借入金	4,307	8,300	8,809
無形固定資産	3,720	3,865	3,836	繰延税金負債	619	620	556
投資その他の資産	719	2,863	4,922	その他の固定負債	193	193	202
資産合計	29,261	37,635	36,515	負債合計	15,594	19,963	19,097
				純資産合計	13,666	17,672	17,417
				負債純資産合計	29,261	37,635	36,515

*1 投資その他の資産の増加は、投資有価証券の増減によるもの

21

©TAUNS Laboratories, Inc.

こちらは貸借対照表の前期末及び前四半期末時点との比較です。

長期借入金と有形固定資産の増加は、主に新工場への設備投資によるものです。また、投資その他の資産は、株式会社 KINS と Craif 株式会社、アイリス株式会社への投資などにより増加しました。



01. 会社・事業概要	P.02
02. 2025年6月期 決算概要	P.11
03. 2026年6月期 業績予想	P.22
04. Appendix.	P.27

22

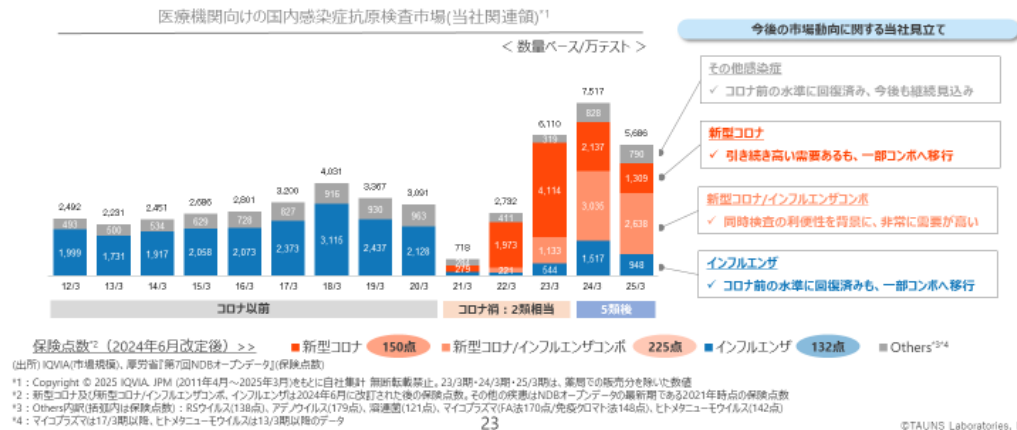
©TAUNS Laboratories, Inc.

ここからは、2026 年 6 月期の業績予想についてご説明します。

タウンズ | 2025 年 8 月 14 日 (木)
197A 東証スタンダード市場 | <https://www.tauns.co.jp/investors/>

コロナ禍を経て拡大した、医療機関向け国内抗原検査市場

- 医療機関向けの国内抗原検査市場規模は、コロナ禍以前はインフルエンザを中心に年間30百万テスト前後で推移
- コロナ禍を経て新型コロナ単品・コンボの検査が定着したことで、市場規模は24/3には年75百万テストと大幅拡大した。25/3においては流行規模が下振れし、またコンボ検査へのシフトが進んだことから、単品検査の市場規模は縮小した

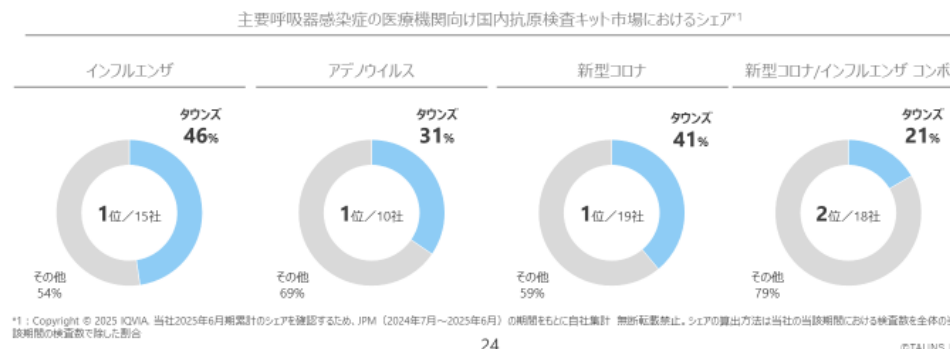


こちらは、国内の医療機関向けの、主要な感染症抗原検査キットの市場規模の推移です。いわゆるコロナ禍の前は、青いボックスのインフルエンザを中心に、年間 30 百万テスト前後の抗原検査がなされていました。

コロナ禍を経て、オレンジの新型コロナや、薄いオレンジの新型コロナとインフルエンザのコンボ検査キットが加わったことで、足元の市場規模は年間 57 百万テストと、前年と比較すれば流行の下振れにより市場規模は縮小しましたが、引き続きコロナ前より大きな水準となっています。当社の 2026 年 6 月期業績予想の前提として、抗原検査キットの市場規模については 2025 年 6 月期の水準から一定の回復をすることを想定しております。

高い市場シェアと拡大余地

- インフルエンザ、アデノウイルス及び新型コロナの抗原検査キット市場で、当社は国内トップシェア
- インフルエンザ検査キットは引き続き高いシェアを維持しており、新型コロナ単品検査キットは前期と比べてシェアが大幅に伸長している
- 一方で、今期の成長ドライバーに掲げていたコンボ検査キットについては、いまだシェア拡大の途上にある。ロシュとの販売提携や改良品の投入により、更なるシェア拡大を目指している



こちらは、当社主要製品の、足元の国内市場シェアです。

タウンズ | 2025 年 8 月 14 日 (木)
197A 東証スタンダード市場 | <https://www.tauns.co.jp/investors/>

2025 年 6 月期においては、新型コロナ単品検査キット、インフルエンザ単品検査キット、アデノウイルス検査キット等の主要製品において、国内トップのシェアを堅持しました。特に新型コロナ単品検査キットについては、大幅にシェアを伸ばすことができました。

一方で、当社の短期的な成長ドライバーの一つとして、相対的にシェアの低いコンボ検査キットのシェア拡大を掲げておりますが、未だ途上にあります。今後に向けては、ウサギ抗体を使用した改良製品の投入や、販売パートナー各社との協力体制の強化による巻き返しを図っております。

業績予想

- 26年6月期においては、増収・営業増益・経常減益・当期増益を見込む
- 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ共に流行水準が想定を下回った25年6月期対比で、市場規模は一定回復すると想定。他方で、成長戦略実行などに向けコスト増を織り込んだことから経常利益では小幅に減益。特別利益として新工場に係る補助金収入を見込むため、当期利益は大幅な増益

(百万円)	24年6月期 予想 ①	24年6月期 実績 ②	25年6月期 予想 ③	25年6月期 実績 ④	26年6月期 予想 ⑤	増減 ⑤/④	利益率
売上高	17,553	18,434	19,273	18,627	20,769	111.5%	-
営業利益	7,891	8,030	8,308	8,265	8,323	100.7%	40.1%
経常利益	7,741	7,840	8,316	8,219	8,143	99.1%	39.2%
当期利益	5,550	5,774	6,019	6,315	8,613	136.4%	41.5%

業績予想策定にあたり、主に以下を想定

- ✓ 市場規模は、25/6期以上に回復することを想定。卸業者との関係強化、塩野義製薬やロシュとの販売提携を受けて、シェアは小幅に改善を想定。コンボキットの改良品は、期中の市場投入を計画するが、保守的に計画には織り込まず
- ✓ 販売単価は、過去のトレンドを鑑み小幅の下落を想定
- ✓ コスト面は、新工場に係る費用や、成長戦略の実行に向けたコストを織り込む。特別利益に新工場に関わる補助金を計上

25

©TAUNS Laboratories, Inc.

こちらは、直近 2 期間における予想と実績、2026 年 6 月期の業績予想を一覧比較しております。2026 年 6 月期においては、増収、営業増益、経常減益、当期増益を想定しております。前期比で市場規模は一定の回復をするものと想定して増収を見込む一方で、成長戦略実行などに向けたコスト増を織り込んだことから、経常利益ベースでは小幅に減益を想定しております。特別利益として新工場に係る補助金収入を見込むため、当期利益ベースでは大幅な増益を想定しております。

株主還元



- 2025年6月期に関する配当は、2024年8月13日に公表した配当予想から変更なし
- 2026年6月期から開始する中期経営計画期間において、28円を起点とする累進配当を導入。中期の株主還元方針の全体像については、8月20日に開示予定の中期経営計画にて詳細説明予定

(円)	中間配当	期末配当	年間配当	備考
2024/6期	6.00	21.75 ^{*1}	27.75 ^{*1}	東証スタンダード市場への上場を記念して、1株当たり11円10銭の特別配当を実施
2025/6期	6.00	22.00 ^{*2}	28.00 ^{*2}	当社設立10期目を迎えるため、期末に1株10円00銭の周年記念特別配当を実施予定
2026/6期 (予想)	6.00	22.00	28.00	26年6月期から開始する中期経営計画期間において28円を起点とする累進配当を導入

^{*1}: うち、上場記念配当11.10円
^{*2}: うち、法人設立10周年記念配当10.00円を予定

26

©TAUNS Laboratories, Inc.

こちらは、株主還元の方針についてご説明したものです。2025 年 6 月期に関する配当は、2024 年 8 月 31 日に公表した配当予想から変更ありません。また、過去において当社は配当性向 30%をベースとした配当方針を掲げておりましたが、2026 年 6 月期に関する 1 株当たり配当は 28 円とし、中期経営計画の対象期間である 2030 年 6 月期までの 5 か年において、28 円を起点とした累進配当制を導入することと致しました。なお、中期的な株主還元方針の詳細につきましては、8月20日に開示する中期経営計画にてご説明させていただきます。

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp